

久留米市美術館 2026年度展覧会のご案内

開館10周年記念展 美の新地平—石橋財団アーティゾン美術館のいま

2026年2月14日(土)～5月24日(日)

印象派や日本近代洋画などブリヂストン美術館の伝統を引き継ぎながらも、現代美術や女性作家の作品、日本近世美術の収集にも力を注ぎ、コレクションの幅を広げ続けるアーティゾン美術館。約3000点におよぶ石橋財団コレクションの中から、新収蔵作品を中心に、アーティゾン美術館の「いま」を伝える作品80点を紹介します。

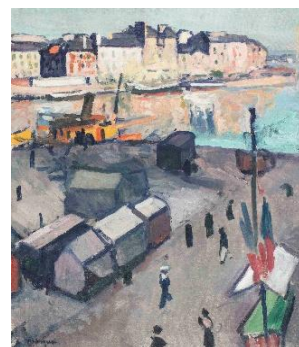


左：ヴァシリー・カンディンスキー《自らが輝く》1924年 右：藤島武二《東洋振り》1924年 石橋財団アーティゾン美術館

開館10周年特別展 アルベール・マルケ展

2026年6月9日(火)～7月29日(水)

マティスらとともに20世紀初頭の「フォーヴ」運動を牽引したフランスの画家アルベール・マルケ(1875-1947)。「われらが北斎」と呼ばれた大胆な構図と、灰色を基調とした穏やかな色彩が特徴です。国内では35年ぶりの個展となる本展ではパリのセーヌ河畔や旅先で見つめた港湾風景など水辺の風景を中心とした約90点を紹介します。



左：アルベール・マルケ《ル・アーヴル、港湾》1906年
アンドレ・マルロー近代美術館、ル・アーヴル
Le Havre, musée d'art moderne André Malraux © MuMa Le Havre / Charles Maslard

開館10周年ちくごist 河北秀也 デザインの旅

2026年8月8日(土)～10月12日(月・祝)

「ちくごist」の第3回として、久留米出身のアートディレクター・河北秀也(1947-)のデザインワークを紹介する展覧会。本展では初期の代表作である地下鉄路線図や地下鉄マナーポスターをはじめ、ライフワークといえるiichiko designの魅力を多角的に掘り下げることから、河北秀也が歩み続けてきた「デザインの旅」を巡る機会とします。



B倍ポスター No. : A-1 掲出月：1984年4月

開館10周年コレクションing コレクションをとともに見る・語る

2026年10月24日(土)～2027年1月11日(月・祝)

2016年11月に開館した久留米市美術館は、これまでに300点をこえる作品を収集してきました。その中から学芸員が選んだ「押し作品」を展示します。誰でも参加できるコーナーがありますので、作家の思い出や、作品を見た時の気持ち、感想などを聞かせてください。来館された皆さんと美術館と一緒に楽しみ、作り上げていく展覧会です。



児島善三郎《ミモザその他》1957年 久留米市美術館

町田市立国際版画美術館所蔵 長谷川潔展—パリに生きた銅版画家の軌跡

2027年1月23日(土)～3月28日(日)

日本を代表する銅版画家、長谷川潔(1891-1980)は、第一次大戦後に単身渡仏し、失われつつあった技法マニエール・ノワール(メゾチント)を復興させ、近代版画史に大きな足跡を残しました。初期から晩年に至る代表作を網羅的に紹介するとともに、生涯をパリで終えた長谷川が同地で出会った版画の先達の名品の数々も展示します。



長谷川潔《時 静物画》1969年 町田市立国際版画美術館

※都合により会期等変更になる場合がありますので予めご了承ください。

※入場料など詳細は久留米市美術館公式ホームページにて随時お知らせします。



久留米市美術館ホームページ